

CLTと2×4のハイブリッド木造特養

CLT活用で開放的空間を創出

トーヨー富士工

CLTを使った木造の特別養護老人ホームの建築が進んでいる。トーヨー富士工（東京都、角田隆二社長）が施工、奥野設計（同、奥野寛社長）が設計を手掛けた物件で、物件の共用部にあたる床及び天井にCLTを使用したほか、2×4工法を軸としたハイブリッド工法で建築している。

建築中の物件は社団

法人北友会を施主とする特別養護老人ホームで、延べ床面積は約4500平方メートル。2024年夏に着工し、25年8月末を竣工予定としている。

CLTは銘建工業の生産で、物件の共用部に当たる部位の2階及び3階の床・天井となる。2階と3階で床面積は約700平方メートルずつで計約1400平方メートル。CLTはパネル枚数で合計約150枚を使用した。最も大型のCLTパネルで2・499メートル×7メートル、重量2・3トンドで、各パネルをクレーンで吊り上げて敷いた。

遮音性や断熱性への効果を考え、CLT採

用に至った。

CLT活用に加え、キーテックのLVLを梁に使用し、柱のない開放的な空間も創出している。LVLの梁は2階と3階で計約430本を使用した。



建築中のCLT天井。現在は石膏ボードによる被覆の作業が進む

2×4工法の壁パネルはウイングの制作。内部には2×6パネルを2枚組み合わせる形の柱のような使用方法もあり、これは重厚感を出し意匠性を高めるための工夫としている。1時間耐火構造を取得しており、内部の2階床は21ミリの石膏ボード2枚貼り、1階天井は25ミリの石膏ボードを施工するなどの耐火被覆で性能を担保している。

このほか、階段部分や作業用エレベーターが入る一部部位は鉄骨造を用いている。

今回、施工主がCO₂削減などの環境性能も考慮し、木造での施工

を決めたという。またCLTと2×4工法をトーヨー富士工では同規模の物件は過去にも組み合わせた物件は初めてという。手掛けた例があるが、